

群 教 セ	G15 - 01
	令元.271集
	小-キャリア

令和元年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 柳田 修平

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社(以下、群馬ヤクルト)は、より多くのお客様に「健康と美」をお届けすることを使命とし、「予防医学」「健腸長寿」「誰もが手に入れられる価格で」という三つの考え(代田イズム)を原点に事業展開を行っている。創業当時から地域、人とのつながりを大切にしており、商品の販売だけでなく、健康教室や子供向けの食育教室も実施している。商品を販売することを目的とするのではなく、商品の価値を知ってもらい、利用していただくことで、地域の方々を健康にすることを目指している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月2日～5月31日】(研修場所：群馬ヤクルト本社)

新入社員研修では、代田イズムや価値普及の大切さといった群馬ヤクルトの理念をはじめとして、ヤクルト製品の特長や各部門の業務内容についての研修に参加した。その後、群馬ヤクルトの基幹部門である宅配サービス部、直販サービス部の業務内容を先輩社員に同行して経験し、現場ではどのように理念の実現や価値普及に努めているかを学んだ。

(2) 直販サービス部研修【6月3日～9月30日】(研修場所：県内各所)

直販サービス部研修では、量販店や施設給食、自動販売機などに商品を納品する社員に同行し、スーパーや商店への納品、給食室へのお届け、自動販売機への補充業務など、日々の業務を学びながら社員と一緒に取り組んだ。社内会議にも参加し、業務改善について社員と同様に業務を通して気付いた課題と改善策について話し合った。

(3) 宅配サービス部研修【10月1日～11月29日】(研修場所：県内各所)

宅配サービス部研修では、県内にある各サービスセンターにて、宅配社員に同行し、住宅や職域へのお届け、新規のスタッフ募集の活動、各イベントでの商品紹介活動などに取り組んだ。お届けの際には、健康に過ごすためのアドバイスも行った。

(4) 人材開発部研修【12月2日～3月25日】(研修場所：群馬ヤクルト本社)

人材開発部研修では、毎月入社してくる新人スタッフ研修の講師を務めたり、学生のインターンシップ活動の受入れの支援を行ったりした。研修では創始者の生い立ちや研究の歴史、健康知識、商品知識に関する講義を担当した。その際、「代田イズム」・「群馬ヤクルトの理念」について、研修を通して学んだことを基に講義を行った。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

群馬ヤクルトで学んだことを基に、「目標達成に向けてチームで取り組むことの大切さ」をテーマに、小学校高学年向けリーフレットを作成した。企業でも学校でも、活動に対して目標を設定し、その目標の達成に向けて活動を行っている。企業では目標を達成するために、チームで活動し、チームの一人一人が役割を理解し、チームでの取組が会社全体を推進する力になるように、社員全員で知恵を出し合って工夫している。学校においても、学校教育目標を達成するために、学校での各活動をチームでの取組として捉え、一人一人が役割を果たし、各チームが一つの目標に向けて協力することの大切さを伝える内容とした。

(2) 実践の概要（高崎市立乗附小学校）

授業実践

題材名 「係や委員会の仕事を見直そう」（児童会活動）

対象 第6学年 54名

群馬ヤクルトでは、全社員が共通の意識をもつとともに、従事者のエンゲージメント（貢献意欲）を高めることで、大きな成果を継続して挙げている。この群馬ヤクルトの取組を基に、研究協力校の児童一人一人が目標に向かって自分の役割を果たし、学校への所属意識を高め、自主的、実践的な取組が行えるよう、学校が目指す児童像として「のつけっ子」を掲げた。児童が「のつけっ子」を目指すことを共通の意識としてもち、委員会活動を行うことで、よりよい学校にするための課題を主体的に解決する力を高めたいと考え、本授業を実践した。本時では、研究協力校6学年全員を対象に、乗附小児童全員が学校教育目標を達成できるような活動（プロジェクト）を委員会のメンバーで話し合わせた。そして、各委員会で決定したプロジェクトを記入した宣誓用紙を児童玄関に掲示し、学校全体で共有し活動に取り組めるようにした。

II 研修成果

1 人材開発部研修について

人材開発部の研修を通して、従事者がスキルアップできる環境づくりを行っていることを実感した。社員一人一人が群馬ヤクルトで働くための基礎を学び、商品に関する知識の獲得や販売方法など必要に応じたスキルを習得することで、円滑な業務につながっていくことが分かった。

本授業実践においても、校長のリーダーシップの下で校内研修を実施し、全職員が授業に関わる体制を構築することで、授業実践の取組が学校全体の取組として定着することができた。

2 基幹部門研修について

社員一人一人がお客様を健康にしたいという強い思いをもって、活動を工夫していることを実感した。また、活動の内容を、会議や研修で共有し、全ての社員が行えるようするなど、チームで業務に取り組むことの重要性を実感した。学校においても、各教員が行っている指導の工夫を職員研修などで共有し、若手教員が実践できるチーム学校となる環境づくりに努めたい。

3 キャリア教育実践について

各委員会で、児童一人一人が主体的に活動を提案し、話し合い、目指す児童像を意識させたプロジェクト活動を実践することができた。プロジェクトの実践によって学校全体に変化が見られたことにやりがいを感じさせたり、主体的に活動することの大切さに気付かせたりすることができた。また、目指す児童像を「のつけっ子」として児童に分かりやすいキャッチフレーズにしたことで、日々の生活においても意識できるようになった。

III まとめ

企業での研修を通して、改めて集団に所属する全員が目標を共有し、チームで取り組むことの大切さを学んだ。そして、その目標を意識し、一人一人が活動を工夫することで、集団としての成長が期待できることが分かった。学校でも、学校教育目標を全員が共有し、児童一人一人が活動を工夫しながらチームで取り組むことで、よりよい学校への変化が見られた。また、職員研修の実施により、全職員が共通認識をもち、児童会活動の取組に対して共有できたことによって、チーム学校としての取組につながった。この取組を継続して行っていくとともに、教育活動における全ての場面で、本研修で学んだことを生かし、児童、職員にとってよりよい学校になるよう、努めていきたい。

（担当指導主事 阿左見 充良）